

〒 160-0023
所在地 東京都新宿区西新宿一丁目4番11号
全研プラザSPACES新宿

評価機関名 一般社団法人LabooLa

認証評価機関番号 機構 20 - 252
電話番号 03-6871-8513 (公印省略)
代表者氏名 若盛 正城

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		修了者番号
	①		H1001023
	②		H0702077
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		
福祉サービス種別	認可外保育施設(ベビーホテル等)		
評価対象事業所名称	たまがわベビーハウス		
利用形態(複数選択可) (該当する形態を選択)	<input checked="" type="checkbox"/> 月極保育 <input type="checkbox"/> 時間預かり(一時預かり)保育		
事業所連絡先	〒	197-0825	
	所在地	あきる野市雨間429-8	
	TEL	042-558-0218	
事業所代表者氏名	濱川 明子		
契約日	2025年 6月 1日		
利用者調査票配付日(実施日)	2025年 7月 14日		
利用者調査結果報告日	2025年 9月 12日		
自己評価の調査票配付日	2025年 6月 18日		
自己評価結果報告日	2025年 9月 12日		
訪問調査日	2025年 9月 17日		
評価合議日	2025年 9月 17日		
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	<p>・利用者調査は共通評価項目に則り、ウェブアンケートで実施しました。園からのアプリでの配信、園内のポスター掲示等で保護者の理解を促進し、期限前の御礼兼再周知を図ることで、回収率向上にも努めました。</p> <p>・事業所には、開始時に第三者評価制度の意義や評価項目の説明をし、理解を深めました。また、独自の資料の提供とアーカイブ配信などの配慮をしました。</p> <p>・訪問調査は、評価者が実際に事業所を訪問し、分析シートや事前資料の情報を現場の姿と照合して確認を行いました。調査終了後に評価者間での合議を実施しました。</p>		

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1. 事業者の理念・ビジョン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育・保育と多様な子育て支援の充実で「地域の子育て支援・教育センターを目指す」 ・子どもが主体的に環境に関わり、体験を通して学び成長することを大切にする ・多様な保護者のニーズや社会の変化に柔軟に対応し、園・家庭・地域とのつながりを重視する <p>2. 教育理念:「おもしろいこといっぱい！」</p> <p>3. 教育目標:「あかるく・やさしく・たくましく」</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが大好きな人 ・明るく、前向きな気持ちで物事に取り組める人 ・思いやりがあり、人の役に立つことに喜びを感じられる人 ・相手の気持ちや立場を考え、互いを尊重できる人 ・自身の成長に意欲をもち、学び続けようとする人 <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期的人格形成を支える立場としての責任を自覚し、一人ひとりの子どもの成長を最大限支えること ・組織の一員として、自身の役割と目標を理解し、責任をもってその役割を果たすこと ・これまでのやり方や考え方にとらわれず、時代や状況の変化に柔軟に対応すること ・課題を自ら見つけ、より良い環境づくりのために主体的に行動すること ・職場で関わるすべての子どもや大人に対して、常に敬意をもって接すること

調査対象

調査対象時点、事業所の利用世帯10(在籍児童数10)を対象として実施しました。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱いました。

調査方法

調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠しました。ウェブアンケートを用い、すべての回答者から弊機関への無記名での入力と提出を依頼しました。自由意見については、回答者の匿名性に配慮し、表記の加工などの処理を適宜行いました。

利用者総数	10
利用者家族総数(世帯)	10
共通評価項目による調査対象者数	10
共通評価項目による調査の有効回答者数	7
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	70.0

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は、「大変満足」85.7%・「満足」14.3%の計100%でした。設問別でも、「サービスの提供」「安心・快適性」「利用者個人の尊重」「不満・要望への対応」の全ての項目で100%という高い支持を得ています。自由意見では、「子どもが楽しく保育園に行けているのは先生方のお陰だと思い、感謝しかありません。これからもよろしくお願いします」「日頃から本当によくしてもらえ、感謝しています」の声がありました。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育施設での活動は、子どもの心身の発達に応じたものとなっているか	7	0	0	0
「無回答」「非該当」を除く実質的な満足度(以下、「有効回答者」)のうち、「はい」が100%でした。 自由意見の記入はありませんでした。				
2. 保育施設での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	7	0	0	0
有効回答者のうち、「はい」が100%でした。 自由意見の記入はありませんでした。				
3. 【保育施設からの食事提供を受けている方のみ】 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	7	0	0	0
有効回答者のうち、「はい」が100%でした。 自由意見は、「食事の展示があると嬉しい」の1件でした。				

4. 保育施設の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	7	0	0	0
有効回答者のうち、「はい」が100%でした。 自由意見の記入はありませんでした。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	7	0	0	0
有効回答者のうち、「はい」が100%でした。 自由意見の記入はありませんでした。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	7	0	0	0
有効回答者のうち、「はい」が100%でした。 自由意見の記入はありませんでした。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	7	0	0	0
有効回答者のうち、「はい」が100%でした。 自由意見の記入はありませんでした。				
8. 子どもの保育について家庭と保育施設に信頼関係があるか	7	0	0	0
有効回答者のうち、「はい」が100%でした。 自由意見の記入はありませんでした。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	7	0	0	0
有効回答者のうち、「はい」が100%でした。 自由意見の記入はありませんでした。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	7	0	0	0
有効回答者のうち、「はい」が100%でした。 自由意見の記入はありませんでした。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	7	0	0	0
有効回答者のうち、「はい」が100%でした。 自由意見の記入はありませんでした。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	6	0	0	1
有効回答者のうち、「はい」が100%でした。 自由意見の記入はありませんでした。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	7	0	0	0
有効回答者のうち、「はい」が100%でした。 自由意見の記入はありませんでした。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	7	0	0	0
有効回答者のうち、「はい」が100%でした。 自由意見の記入はありませんでした。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	7	0	0	0
有効回答者のうち、「はい」が100%でした。 自由意見の記入はありませんでした。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	7	0	0	0
有効回答者のうち、「はい」が100%でした。 自由意見の記入はありませんでした。				
17. 外部の苦情窓口（行政等）にも相談できることを伝えられているか	7	0	0	0
有効回答者のうち、「はい」が100%でした。 自由意見の記入はありませんでした。				

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリ-2の講評			
<p>利用開始にあたっての重要事項の説明と、各種の同意確認を行っています</p> <p>利用開始にあたり、保護者に入園説明会を実施し、詳細な説明をしています。「園生活のしおり」をもとに、「おもしろいこといっぱい」という遊びを通じた子どもたちのさまざまな学び、幼稚園との連携のもとでの子育て支援などのほか、安全及び感染症の対策、虐待防止・苦情解決・個人情報保護から、必要な持ち物や準備物、登降園時のお願い事項などを説明しています。これらの説明のうえで、重要事項説明書及び個人情報利用に関する同意書を取得し、この説明に関する同意確認としています。</p> <p>入園前の子どもの成育歴や健康状態などを把握し、保育開始後の支援に活かしています</p> <p>入園前には、子どもの出生歴や発達の状況、食事・排せつなどの生活面、子どもや保護者の気になることなどを確認するほか、かかりつけ医や既往歴、予防接種などの保健に関する情報も把握しています。食材の経験や食物アレルギーの有無など、書類を提出してもらい、個別の面談にて状況を確認しています。また、アレルギー児に対しては、看護師・栄養士も同席して対応を検討しています。日常的な会話に加え、職員会議では、子ども一人ひとりの状況や変化などを伝え合っており、新入園時の情報を共有し、その後の支援に活かしています。</p> <p>利用直後や利用終了後など、環境変化に応じた不安軽減に配慮している</p> <p>利用開始直後は慣らし保育を個別に対応し、無理のない園生活のスケジュールを組み、徐々に保育時間を延ばしながら、子どもにとっても、保護者にとっても負担がないよう、配慮しています。また、お迎え時のやり取りだけでなく、連絡ノートでのやり取りも行いながら、保護者の不安を軽減しています。利用終了後の支援の継続として、法人内の隣接する幼稚園が連携施設のため、あらかじめ保護者にも伝えることで、継続的な関わりを持ちつつ、不安が生じないよう配慮しています。</p>			

サブカテゴリ-3

3 個別状況の記録と計画策定

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

13/13

評価項目1

定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当

評価項目2

全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況(保護者の意向を含む)の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当

評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-3の講評		
子どもの心身の成長・発達・健康状態を定期・随時に確認し、記録しています 子どもの心身の成長・発達・健康状態を定期・随時に確認し、記録する仕組みを整えており、実際の援助・配慮に活かしています。子どもの身体的な発育の状況は、毎月発育測定を実施しており、結果は保護者とも共有しています。健康面の状態は日々の視診のほか、年2回、医師による内科検診、年1回の歯科検診を実施して把握しています。また心身の発達の状況については、毎月、子どもの成長・発達課題・今後の援助の方針や成長の見通しを書き記しており、これらを踏まえた個別の指導計画を作成し、個々に応じた援助・配慮に努めています。		
全体的な計画を基に、長期・短期の計画を策定し、実践に活かしています 全体的な計画な計画には、事業の目的・保育理念・教育保育方針・園の教育保育目標のほか、年齢別の教育及び保育目標や領域別年齢別のねらい・内容・配慮事項、食育の推進・環境安全管理などに関する方針や考え方、目安などを記載しています。この計画をもとに、年齢別の年間を4期で構成する長期的な保育計画を策定し、月案等の下位計画に展開する仕組みとしています。計画は周期ごとに振り返りを実施することを基本とし、年間計画の期の振り返りの内容は、月の計画に反映させることで、実際の子どもの姿に即した実践となるよう工夫しています。		
個人別の計画を策定して援助に活かし、計画や活動の内容を保護者に伝えています 2歳児クラスまでの本園は、心身の発達の現れが著しく、子ども一人ひとりの状況に応じた個別の援助を大切にしており、上記のような、長期・短期の計画に加え、個人別の指導計画も策定し、援助に活かしています。子どもたちの状況は、「保育ミーティング」において職員間で共有し、多面的な成長を促えられるようにしています。子どもの生活や遊びの様子は、日々の対話や連絡帳のやり取りを通じて伝え、指導計画の内容については、毎月のアプリで保育の目標や活動の予定・様子を記載するほか、懇談会でも目標や取組の説明をしています。		

サブカテゴリ-5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
サブカテゴリ-5の講評		
<p>個人情報の利用への同意を確認し、プライバシーに配慮した保育を行っています</p> <p>子どもに関する情報を外部機関と共有する際には、入園時に取得している個人情報取り扱いの同意を基盤としつつ、内容に応じて必要な範囲を明確にし、提供の都度保護者の同意を得るようにしています。家庭支援センターや巡回相談などの専門機関との連携でも慎重に情報を扱うこととしています。また、日々の保育では低年齢児の羞恥心やプライバシーへの配慮を重視し、着替えの場面では状況に応じてパーテーションやロールカーテンを用いるなど、周囲の視線が気にならない環境を整えています。</p> <p>保護者支援や人権擁護に関する職員の研鑽と意識継続に努めています</p> <p>保育士等キャリアアップ研修の保護者支援を受講しており、子ども主体の保育や子どもへのまなざし、障害のある子どもの関わり、虐待や保育所の役割などを学んでいます。研修の報告として感想を記載したうえでファイリングし、職員間での閲覧に供しています。「職務の手引き」に保育者としての心得や望ましい子どもへの関わりなどを示し、職員への配付と入職時の説明を行っています。法人の人権擁護委員会を通じて「丁寧な言葉遣い」というスローガンが示され、職員への意識継続が促されています。</p>		

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
6 事業所業務の標準化			
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当	
サブカテゴリ-6の講評			
<p>法人及び園で必要となる業務の標準を示し、現場での活用がしやすいよう掲示している</p> <p>「職務の手引き」には、基本理念や園の社会的な役割、保育者や社会人としての心構えと守るべき事項が、日常の業務から安全・衛生面、個人情報の保護や保護者対応など、多岐に渡った内容でまとめられ、これを職員に配付し、入職時に説明しています。防災・防犯・熱中症・感染症のほか、食中毒・食物アレルギー・園での応急処置などの法人で整備したマニュアルがあり、ファイリングして随時、閲覧に供しています。園内では行政のガイドラインやマニュアルをもとに園内に一部を掲示し、衛生・安全管理の即時の対応と、日常的な活用を行っています。</p> <p>各種の手引きや運営上の仕組みについて、必要な見直しと改善を行っています</p> <p>法人が定めた各種の手引きやマニュアルなどは、実際の運用と異なる場合や国のガイドライン・通知などの変更によって、改定や追加での作成などを行っています。園内での職員間の話し合いや会議の際にも、見直しや検討が必要な際にその都度対応しています。保護者からの要望があれば、その都度、職員間で話し合い、必要があれば速やかに見直しています。また、行事ごとにアンケートを行い、保護者の意見に耳を傾け、園で対応可能なものは改善に努めています。</p>			

II サービスの実施項目(サブカテゴリ-4)

サブカテゴリ-4	
サービスの実施項目	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 37/37
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	評点(〇〇〇〇〇)・非該当1
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている
○あり ○なし	6. 【5歳児が利用している保育施設のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携を図っている
評価項目1の講評	
<p>子どもの発達の把握に努め、主体的に過ごせるよう環境や援助の内容を考慮しています</p> <p>子ども一人ひとりの生活環境や発達の過程を丁寧に把握することを基盤とし、日々の姿を毎月記録しながら成長の課題や援助の方針を整理しています。計画の作成に際しては、非常勤を含む全職員で話し合い、多様な視点を踏まえて保育方針を共有しています。また子どもが自分で選んで遊び始めるよう玩具を取り出して配置し、興味に応じた主体的な活動が展開しやすい環境を整えています。保育者は受容的に気持ちを聴き取り、安心して自己表現できる関係づくりを大切にしています。</p> <p>異年齢の子ども同士の関わり合いによる育ち合いが促されています</p> <p>異年齢の子ども同士の関わり合いによって、互いを尊重する心の基礎を育めるよう保育に取り組んでいます。散歩では異年齢で手をつなぎ、年上が自然に年下を気にかける場面や、年下が憧れをもって真似ようとする姿が生まれており、その気持ちを保育者が丁寧に言葉で受け止めています。同時に言葉や状況の理解力、遊び方の異なる子どもたち同士の関わりでは、年上の子どもの遊びの保障も大切にしています。また2歳児は、系列のこども園の活動に参加する時間を設け、遊具の使い方を知ったり、年上の子と関わったりする経験を積めるようにしています。</p> <p>配慮を必要とする場面では、個性や心情を踏まえた個別の援助に努めています</p> <p>特別な配慮が必要な子どもについては、特別扱いにならないよう周囲の友だちと同じ生活の中で自然に関われる環境を整えつつ、必要な場面では個別に支援しています。外国籍の子どもには生活や言語面での援助を行い、職員全体で情報を共有しながら一貫した支援を行えるよう取り組んでいます。ケンカやかみつきなど発達の過程で起こるトラブルには、双方の気持ちを丁寧に聴き取り、気持ちを受け止める姿勢を大切にし、代弁をして思いを伝える助けをしたり、言葉の伝え方を教えたりするなどの援助を行っています。</p>	

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息・午睡等の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>登園時には子どもの状況を把握し、降園時には1日の様子を保護者に伝えています</p> <p>登園時には、受け入れを担当する保育者が子どもと挨拶を交わしながら、顔色や表情、機嫌など、子どもの体調や情緒の状況を確認、家庭での子どもの体調や機嫌、睡眠状況などを保護者から聴き取り、職員間で情報共有をしています。また保護者による連絡帳の記載内容も確認するなど、職員が子どもの情報を共有したうえで保育にあたることとしています。降園時には、その日の体調や生活の様子、園でのエピソードを保護者一人ひとりに口頭で伝えるほか、連絡帳に園での生活と遊びの様子を記載しています。</p> <p>子どもが健康的に過ごせるよう休息への配慮に努めています</p> <p>子どもが健康的に過ごせるよう休息への配慮に努めています。午睡は日課に沿って行いつつも、生活リズムや体力、その日の状態に応じて柔軟に対応しており、午前寝もできるようにしています。食事中に眠たくなってしまふ場合には、子どもの意欲と口腔内の残留物の有無を確認したうえで、寝られるようにしています。入眠時には個々のペースや好みを踏まえて、側についてさすったり、トントンしたりするなどの援助を行っています。また脱水症状の予防し心身のリフレッシュを図れるよう、生活や遊びの切り替え時などに水分補給を行っています。</p> <p>基本的な生活習慣が無理なく身につくよう、個別に援助しています</p> <p>子どもたち一人ひとりの発達段階を踏まえ、基本的な生活習慣が無理なく身につくよう個別に援助しています。着替えでは、手本を示したり行動の流れを知らせたりしながら、自分で気づいて取り組めるよう環境を工夫し、2歳児には足形の表示など視覚的に理解しやすい仕掛けを用いて生活行動の定着を促しています。排せつの自立については、個々の発達や意欲に応じて段階的に進めて感覚を掴めるようにするなど、家庭との連携のもとで無理のない支援に努めています。子どもの成長や課題は毎月記録し、非常勤を含む全職員で共有しています。</p>		

3

評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが人と関わる力を養えるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの心身の発達が促されるよう、戸外・園外活動(外気浴を含む)を実施している	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもが自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当

評価項目3の講評

さまざまな活動を通じて、子どもたちの自主性・自発性の育ちを促しています

低年齢児に合わせ、子どもが自分で「やってみたい」と思った瞬間を逃さず受け止められるよう、玩具は手に取りやすい位置に置き、発達に合った素材を種類ごとに見通しよく配置しています。制作では、数種類の色や素材の中から自分で選ぶ経験を重ね、簡単な塗り・貼りの活動でも主体的に取り組めるようにしています。絵本も興味に沿って提示し、指さしたり、ページをめくろうとしたりする自発的な行動を尊重して援助しています。散歩での探索活動では、自ら歩き、触れ、試そうとする姿に寄り添いながら、主体的な経験を支えています。

人との関わりを通じて、社会性の基礎を培っています

低年齢児が安心して他児と関われるよう、職員が近くで気持ちを読み取りながら仲立ちすることを大切にしています。玩具の貸し借りや順番を待つなど、生活や遊びの中で自然に生じるやり取りを支援、まだ言葉が十分に使えない時期でも、表情や身振りを代弁して気持ちが伝わるような援助をしています。気持ちの切り替えが難しい場面では、安心感を与えながら、少しずつ自分で調整できるよう援助しています。幼稚園・保育園との交流や地域行事では、他児との関わりを持つほか、散歩では地域の人と挨拶を交わすなどの、社会性の基礎が培われています。

言葉の獲得や表現力を育み、運動機能を養っています

発声や喃語、指差し、視線合わせなど、言葉の芽生えに向けた応答的なやり取りを日常的に大切にしており、絵本では保育者が語りながら、ページをめくる・指差す・まねるといった初期のコミュニケーションを育てています。制作や感触遊びでは、寒天・小麦粉粘土・片栗粉・色水・絵の具などを使い、触る・握る・こねるといった身体感覚を通して表現する楽しさを味わえるようにしています。音楽ではカスタネットや簡単なリズム遊び、模倣遊びを取り入れ、戸外では歩く・登る・走るなど基本的な運動機能を育て、自然への興味の広がりを促しています。

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>行事に子どもが主体的に参加できるよう、配慮・支援の工夫に取り組んでいます</p> <p>行事は子どもが安心して関われる範囲で興味を發揮できるように構成しています。夏祭りでは、保護者と祭りの雰囲気を楽しんでいます。山車づくりにも取り組み、トイレットペーパーの芯など扱いやすい素材を用い、色や形に気づきやすいスタンプ遊びで花火を表現しており、友だちや保育者と一緒に作る過程を大切にしています。お祭りごっこでは、子どもが作ったたこ焼きやチョコバナナを使って、「どうぞ」「ありがとう」の簡単な応答を楽しんでいます。運動会では、遊戯・かけっこ・親子競技・きょうだい競技などに取り組んでいます。</p> <p>行事を実施するにあたり、保護者との連携や成長を共有するための工夫に努めています</p> <p>行事を実施するには、家庭との連携を大切にし、事前の情報提供は口頭・掲示・アプリを組み合わせ、衣装や準備物がわかりやすいよう配慮しています。夏祭りでは、親子で一緒に雰囲気を楽しめるよう内容をシンプルに構成し、子どもが保護者と一緒に取り組む時間を大切にしています。親子芋掘りや保育参観では、普段の遊びや生活の様子を自然な形で見てもらい、子どもの小さな成長を共有できる機会としています。生活発表会や作品展は、一年の育ちを伝える場として位置づけ、写真展示や作品の工夫を通して保護者が変化を感じ取れるようにしています。</p>		

5 評価項目5 在園時間の異なる子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 在園時間の異なる子ども同士が楽しく遊べるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 在園時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 在園時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当

評価項目5の講評

降園時間の異なる子どもの不安を和らげられるよう努めています

降園時間の異なる子ども同士が安心して関われるよう、子ども同士で落ち着いて遊べるスペースを設けるなどの工夫を行っています。夕方には遊びの内容を切り替えて気分転換できるようにし、心地よく集中して遊びこめるよう配慮しています。また休み明けは体力や生活リズムが整いにくい傾向を踏まえ、保護者から家庭での様子を詳しく聞き取り、その日の調子に合った関わりへつなげることで、不安を和らげるよう努めています。

保育形態や担当が変わる場面でも、子どもが安心して遊び続けられるよう配慮しています

時間帯により保育形態や担当が変わる場面でも、子どもが安心して遊び続けられるよう、環境設定と活動の流れを丁寧に工夫しています。状況に応じて気持ちが落ち着く少人数のコーナーを設けるほか、遊びの種類を段階的に変化させて飽きのこないようにしています。夕方は静的な遊びや簡単なごっこ遊びへと切り替え、一日の疲れが出やすい時間帯にも心地よく過ごせるよう配慮しており、週明けは生活リズムを整えることを週案の目標に据え、担当が入れ替わる時間帯には、子どもの様子を細かく共有し、継続した安心感を保てるようにしています。

6 評価項目6 子どもが安全な環境のもと食事を楽しめるよう配慮している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが安全に食事をとれるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	5. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動、保護者や地域の多様な関係者との連携等)を行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>子どもたちが落ち着いて食事に向かえるよう工夫や配慮に努めています</p> <p>子どもたちが落ち着いて食事に向かえるよう、椅子やテーブルの高さ、席の間隔を発達に合わせて調整し、視界や動線が混雑しないよう食事を摂る環境の工夫に努めています。小食の子や集中が続きにくい子には量を調整する、声かけのタイミングを工夫するなど、負担なく食事をすすめることができるよう援助しています。調理面では咀嚼や嚥下に配慮し、やわらかさや大きさを細かく調整したうえで薄味を基本とし、食材本来の味を楽しめるようにしています。行事食も無理なく食べられる内容に工夫して取り入れ、食べる楽しさが広がるよう配慮しています。</p> <p>誤嚥や誤食を防止するための環境の工夫や手順の確認に取り組んでいます</p> <p>誤嚥や誤食が起こりやすい月齢であることを踏まえ、安全に食事を摂れるよう、保育者がそばで姿勢を支えたり、口元の様子を細かく観察したりしながら援助しています。アレルギー児には専用テーブルを設置し、アレルギー表示を明確にするほか、調理から配膳まで一連の流れの各段階において、複数職員による確認を行うこととし、誤配・誤食の防止に努めています。また体調の変化が急に出やすい低年齢児の特性に応じ、その日の眠気や機嫌、食欲に合わせて量や進め方を調整し、安心して食べられる個別の支援につなげています。</p> <p>食への関心のきっかけとなる食育活動を、年齢を考慮して実施しています</p> <p>1・2歳児が生活の延長として楽しめる食育を取り入れ、契約農家での収穫体験では土や野菜の触感に触れ、食材への興味を育てています。園内では、ジャガイモを水に入れて洗う、果物を皿に移すなど、簡単な工程を中心に取り入れるほか、パフェづくりやホイップ体験も、保育者が隣で寄り添いながら子どもが主体的に手を伸ばせる形で実施するなど、楽しさを味わえるよう工夫しています。また季節の行事と組み合わせるなどして、食べ物と生活がつながる機会を設けており、食への関心のきっかけとなるようにしています。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの体調変化(発作等の急変を含む)に速やかに対応できる体制を整えている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの入退所により環境に変化がある場合には、入所している子どもの不安やストレスが軽減されるよう配慮している	○非該当
評価項目7の講評		
<p>健康や安全に関連する活動を取り入れ、子どもが体験できるようにしています 子どもが健康的な生活習慣を身につけられるよう、手洗いの手順を掲示し、生活の場面ごとで大人と一緒に取り組んでいます。また、健康や安全に関連する内容は絵本や紙芝居などを用いて、季節ごとに子どもに伝えるほか、歯科検診の前には歯に関する絵本を用いて、歯や口腔内の清潔を保つ大切さなどをわかりやすく伝えています。避難訓練の際には、大人の指示のもとで、安全な避難の方法や身の守り方などを、子どもが体験を重ねています。また、散歩や公園・テラス・ホール等で身体を動かすことで、足腰やバランス感覚などの発達にもつなげています。</p> <p>家庭や看護師との連携のもとで、子どもの健康管理と感染症の予防に努めています 入園時に子どもの情報を把握するほか、その後は「けんこうカード」やアプリに、既往歴や予防接種の状況、身長・体重やカウプ指数等を記載し、園と保護者で共有しています。日々の子どもの健康状態や変化があったことは送迎時や連絡帳などで伝え合い、その日の保育に活かしています。また、子どもの体調不良やケガ等が起きた時には、隣接するこども園の看護師の助言や対処ができる体制を整え、必要に応じて受診等の判断を仰ぐなどしています。感染症が発生した時には玄関の掲示やアプリで、流行状況などを保護者に知らせ、蔓延防止に努めています。</p> <p>保健に関する情報提供と、入退所による環境変化への対応を行っています 年2回、医師による内科検診、年1回の歯科検診を実施し、子どもの発育や健康状態を把握し、保護者にも報告しています。また、季節ごとの感染症の予防や健康管理に役立つ情報を、保健便りを通じて、保護者に情報提供しています。子どもの入退所によって環境に変化がある場合、途中入所の子どものみには手厚く職員を配置して個別に関わりながら、子どもの気持ちや状況によって、テラスに出て気分転換をするなど、寄り添った対応に努めています。これによって、入所している子どもがいつもの流れで過ごせたり、他の職員との関わりができるようになっています。</p>		

8	評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている	評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 保護者の養育力向上のため、保育施設の保育の活動への参加を促している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目8の講評		
<p> 行事の日程や内容などに配慮し、保護者の参加を通じて、子どもの成長を共有しています 保護者参加の夏祭りや運動会、生活発表会などの行事は、土曜日を中心として設定するほか、保育参観ではこども園のホールで、朝の会や手遊び、親子競技などをしたり、懇談会の際に芋ほりをするなど、保護者の就労等を考慮し、できるだけ一日に他の行事の内容をまとめるなどの配慮をしています。また、年間の行事予定と毎月の予定を知らせることで、保護者が見通しをもって参加できるよう配慮し、行事の参加を通じて、子どもたちの成長やその時の様子を、保護者に見て感じてもらえる機会となっています。 </p> <p> 職員と保護者との関係が深まるよう、さまざまに取り組んでいます 職員と保護者との相互の信頼関係が深まるよう、日々の送迎時の会話や連絡ノートのやり取りを通じて、子どもに関する情報共有を図っています。毎月の園便りでは、子どもたちの写真を用いて、その時の様子や雰囲気などが保護者に伝わりやすいよう工夫しています。懇談会の際には子どもの様子や日頃の活動などを職員から伝えるとともに、子どもの成長したことなど、テーマをもとに保護者一人ひとりから話を聞く機会を設けています。また、悩みを抱えている保護者がいれば、その場で一緒に話し合うなど、子どもの発達や育児などへの理解を深めています。 </p> <p> 保護者の状況を受け止め、寄り添った対応と細やかなコミュニケーションに努めています 保護者の就労や保育希望時間については入園時に把握し、その後に変更があれば随時把握し、必要な時間の保育提供を行っています。また個人面談を実施し、子どもの様子を伝えるとともに、家庭での状況や保護者の要望なども聞き取り、可能な支援につなげるほか、家庭支援が必要な保護者にはその状況への寄り添いの気持ちを持ち、個別に対応しています。特に小規模な園であるからこそ、職員同士及び保護者との距離が近く、一人ひとりの子どもの状況を共有し合い、それぞれが保護者とコミュニケーションを図るなど、細やかな連携を図っています。 </p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 保育施設の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>地域の方や学生など、幅広い世代との交流が行われています</p> <p>日頃の活動の中で月1~2回、外部講師によるパズリズムの活動で音に親しむほか、散歩や公園遊びなど、積極的に戸外に出かけ、地域の方々に声をかけたり、挨拶をしたりして触れ合っています。毎年、ハロウィン行事の際には、地域の方の協力のもとで、「トリックオアトリート」のやり取りを子どもたちが楽しんでいます。大学生のインターンシップや小学生・中学生の夏ボランティアの希望者を多数受け入れ、子どもたちが少し年上の子どもやいつもと違った大人と一緒に遊んだり、関わりが持てる機会となっています。</p>		

Ⅲ 利用者保護に関する項目

利用者保護に関する項目		標準項目実施状況	9/9
1 評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当	
2 評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当	
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当	
3 評価項目3 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当	
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当	
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当	
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当	
利用者保護の講評(※利用者保護の内容から3つ(必須)記載してください)			
<p>苦情解決の仕組みと日頃から相談できる体制を整えています</p> <p>「園生活のしおり」に苦情受付対応の担当者と責任者、第三者委員の氏名と連絡先、電話・面談・文章などの方式で相談を受け付ける旨を記載し、入園時に保護者に説明しています。また、園内には相談窓口を記載したものを掲示し、いつでも受け付ける姿勢を示しています。実際に保護者から意見・要望があった際には、組織図に応じて報告し、話し合い、改善に向けて速やかに対応する仕組みを整えています。なお、日常的な会話や連絡帳のやり取りなど、日頃から相談できる体制づくりも心がけています。</p> <p>子どもへの丁寧な関わりを大切にし、保育実践にあたっています</p> <p>乳幼児期における教育及び保育は、子どもの健全な心身の発達を図りつつ、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであるという認識に立ち、保育方針「家庭的なあたたかい保育」を目指しています。法人の人権擁護委員会が掲げた目標「丁寧な言葉遣い」を保育実践上で意識するほか、「職務の手引き」の職員への配付と入職時の説明を行い、保育者としての心得や望ましい子どもへの関わりなどを常に意識できるようにしています。また、関係機関との情報交換をしており、虐待の疑い等が生じた際には連携を図る体制を整えています。</p> <p>事故・災害等のマニュアルを整備し、安全に過ごせる環境づくりに取り組んでいます</p> <p>法人全体での取り組みとして、防災、食物アレルギー、衛生管理などのマニュアルを整備し、随時の確認や改正点の周知を図り、事故予防に取り組んでいます。また、園内では行政のガイドラインやマニュアルも活用し、消毒や熱中症の対策、SIDS対策、心肺蘇生法などを園内に掲示することで、速やかな対応に備えています。また、大規模な災害や感染症などを想定した事業継続計画(BCP)を作成するとともに、日常の事故等の振り返りと再発防止に取り組むなど、子どもたちの安全・安心に過ごせる環境づくりに注力しています。</p>			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-2	子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている
タイトル①	個々の発達を踏まえ、排せつ・着脱・食事などの自立を家庭と連携して促しています	
内容①	<p>個々の発達段階や生活リズムを把握し、生活に必要な能力や所作が無理なく身につくよう個別に関わりながら、3歳児以降の他園への移行を視野に入れた自立への支援を行っています。排せつの自立では、排尿間隔や意欲、リズムを踏まえて誘いかけを行い、トイレに慣れられるよう環境を工夫しながら、家庭とも情報を共有して支援に努めています。着脱の援助では、手順を示しつつ理解や意欲に応じて見守るほか、食事や身の動作についても、散歩や日々の生活場面を通して経験を積めるようにし、できたことをともに喜びながら習慣の定着を図っています。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている
タイトル②	次年度の移行がスムーズになるよう、こども園との交流の機会を設けています	
内容②	<p>本園は2歳児クラスまでの受け入れとなっており、本園のサービス終了には、希望すれば近接する多摩川幼稚園（こども園）に入園できる体制が整えられ、例年利用者がいる状況となっています。そのため当該園と連携を図り、2歳児がこども園の活動に参加する時間を設けており、次年度に生活と遊びをともにする子どもたちが、一緒に過ごす時間を増やし、年上の子どもの様子を目にして、刺激を受ける機会となっています。また交流は、広い園庭や園舎、多くの子どもがいる環境に少しずつ慣れることも目的としており、遊具の使い方の説明もしています。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目		
タイトル③		
内容③		

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	「保育ミーティング」等の話し合いや記録を通じて、職員間で子どもの姿を共有し、個々に応じた援助につなげています
	内容	子どもの身体的な成長や健康状態を継続的に把握するため、日々の視診や発育測定、定期健診を実施し、その結果を記録しています。心身の発達については、毎月の記録に成長の様子や課題、援助の方針を整理し、個別指導計画に反映しています。毎月の「保育ミーティング」において、常勤・非常勤を含む全職員が確認し合い、多様な視点から子どもの姿を捉えられるようにしています。共有された内容は日々の関わりや援助に、環境構成や援助方法の見直しに活かし、2歳児までの著しい発達の変化に応じた、一人ひとりへのきめ細かな支援につなげています。
2	タイトル	子どもの感受性や表現力、創造性の基礎が育まれるよう、多様な活動を日常的に採り入れています
	内容	制作活動では、あじさいのはじき絵やカエル、七夕、トウモロコシ、山車づくりなど季節や経験に基づく題材を扱い、素材の感触や変化を楽しみながら体験できるようにしています。色水、片栗粉・小麦粉粘土、絵の具遊びなど、感覚を刺激する素材遊びも設定しています。自然物を使った見立て遊びや、模造紙への自由画、シール貼り・塗り絵といった活動も、感じたことを自分なりの方法で表す経験につながっています。また音楽に合わせたカスタネットのリズム遊びや講師による造形・リズム活動を通して、音や身体を使った表現の幅も広がっています。
3	タイトル	小規模な園の特性を活かし、職員と保護者とのコミュニケーションを積極的に図り、行事等を通じて子どもの育ちを共有しています
	内容	小規模な園であるからこそ、職員同士で一人ひとりの子どもの状況を共有し合い、日々の送迎時の会話や連絡ノートのやり取りを通じて、保護者に子どもの様子を伝えています。また、毎月のお便りで、多数の写真を積極的に活用し、子どもたちの活動内容、その時の表情や雰囲気などがより伝わるよう工夫しています。行事は子どもの成長を共有できる機会として、土曜日を中心として設定したり、複数の要素をまとめて保護者が休みを取る日を減らしたりして、参加しやすいような配慮がなされ、行事を通じて、保護者同士や職員との交流の場にもなっています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	子どもを多面的に理解するための記録と共有の取組を維持しつつ、負担軽減に向けた記録の工夫に一考の余地があると思われます
	内容	発達段階や生活リズムに応じた個別的な援助を行うため、本園では子どもの姿を職員が多面的に捉えられるよう、日々の対話や保育ミーティングを通して情報と認識を丁寧に共有し、記録の充実にも継続して取り組んでいます。こうした営みは保育の質を安定して支える重要な基盤となっていると考えられます。一方で、記録量の増加は職員の業務負担や情報管理の面で課題となる可能性があります。丁寧なアセスメントを、その意義を損なうことなく継続していくためにも、ICTの活用を含め、記録作業の省力化や簡素化を検討する余地があると思われます。
2	タイトル	組織内の状況を考慮しつつ、情報の管理と共有のあり方について、今後の検討に期待します
	内容	組織内の顔の見える関係を生かし、即時の情報共有や話し合いを行うほか、職員会議においても一人ひとりの情報を伝え合い、支援に活かしています。一方で、組織の規模や保管場所の確保などの関係もあるが、各種のアナログ・デジタルでの情報の整理と周知、次に引き継いでいくための仕組みについては、さらなる向上の余地が見受けられました。園の規模や職員の状況に合わせながら、情報の管理と共有のあり方について、今後の検討に期待します。
3	タイトル	
	内容	